

# Sandhata Technologies 社 3年間で600万ドルを節約

*IBM のサービス仮想化によってコストを削減し、迅速なソフトウェア・デリバリーに向けた継続的なテストを促進*

---

## 概要

### ニーズ

Sandhata Technologies Ltd. は、数十ものお客様チャネルを含む、戦略的な決済取引ハブの統合と再構築に苦勞している銀行を支援する必要がありました。

### ソリューション

Sandhata は IBM のサービス仮想化ソリューションを使用して、システム全体での継続的なテストに向けたエンドツーエンドの仮想化環境を作成しました。

### メリット

ある銀行は3年間で600万米ドルを超える節約をただでなく、本番環境でのインシデントの数を99%削減し、プロジェクトの達成スピードを44%加速しました。

Sandhata Technologies Ltd. は、DevOps をベースとするソリューションを提供する専門のミドルウェア・インテグレーターです。同社の統合ソリューションには、サービス指向アーキテクチャー (SOA)、エンタープライズ・サービス・バス (ESB)、ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM)、アナリティクスがあり、同社の統合方法論によって、法規制への適応などの複雑な問題に向けたシンプルで柔軟なソリューションを提供しています。Sandhata はロンドンに本社を置き、米国とインドにもオフィスがあります。株式非公開の同社は、オンショアとオフショアの両方のリソースを提供しています。

## お客様の継続的デリバリーを支援

大企業は、管理対象のソフトウェア・システムを多数保有しがちです。Sandhata のお客様の多くは、統合における手ごわい課題に直面している大企業です。「Sandhata のお客様が直面する課題の1つとして、高品質のデリバリーを望んでいるにもかかわらず、十分なテストを実行できるエンドツーエンド環境が不足しがちな点が挙げられます」と、Sandhata のデリバリー・ディレクターを務める Gary Thornhill 氏は述べています。

---

*Sandhata は IBM のサービス仮想化ソリューションを使用して、統合の課題に取り組む銀行を支援しました。「結論として、サービス仮想化により、お客様のコスト削減と開発のスピードアップが実現します。これはまさに、企業が競合他社への優位性を維持するために必要なことです」と、Sandhata のデリバリー・ディレクターを務める Gary Thornhill 氏は述べています。*

---



---

## ソリューションの構成要素

### ソフトウェア

- IBM® Rational® Test Virtualization Server
  - IBM Rational Test Workbench
- 

このようなお客様の中に、複数の複雑な統合プロジェクトを同時に完了させようと苦労している大手銀行がありました。この銀行は最近、別の金融機関を買収したばかりで、買収した会社のシステムを統合する必要がありました。しかし同行では、自行のシステムを戦略的な新しい取引ハブに移行し、新規プラットフォームで機能を強化する 43 のプロセスが既に進行中でした。「これは非常に大きな課題でした。これらのプロジェクトを行うにあたり、全システムをテストで使用することはほぼ不可能だったからです」と Thornhill 氏は述べます。

「IBM のサービス仮想化がなければ、私たちはこの銀行の戦略的な目標を達成できなかったでしょう」

## IBM のサービス仮想化を使用してデリバリーを加速

Sandhata は IBM のサービス仮想化ソリューション (テスト用にお客様システム環境を仮想的にシミュレーション) を使用して、統合の課題に取り組む銀行を支援しました。Sandhata によるその銀行への支援は、ソフトウェア・デリバリーのライフサイクル全体で、テスト自動化、アジャイル開発、サービス仮想化の使用により、開発のスピードアップ、欠陥の早期発見、本番リリースまでの時間短縮が可能な点をすべて特定することでした。このときに使用された IBM Rational Test Workbench と IBM Rational Test Virtualization Server ソフトウェアを含むソリューションは、Sandhata が、コストが高く維持が困難な実際のテスト環境を構築することなく、テスト用にエンドツーエンドの仮想環境を作成するのに役立ちました。

この銀行のお客様は IBM ソリューションを使用することで、商取引に関わる 60 を超えるインターフェースとサブシステムの統合テストを自動化しました。これには、Java テクノロジー、IBM WebSphere® MQ ソフトウェア、Sybase データベース、サード・パーティーの Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication (SWIFT) 決済サービスを用いて構築したコンポーネントも含まれます。IBM のサービス仮想化ソリューションに組み込まれたテスト機能により、システム統合のテスト期間が 3 週間から半日へと大幅に短縮されるとともに、継続的なテストが支援され、チームのアジャイル開発プロセスがサポートされました。

---

「IBM のサービス仮想化がなければ、私たちは銀行の戦略的な目標を達成できなかったでしょう」

—Gary Thornhill 氏 (Sandhata Technologies Ltd., デリバリー・ディレクター)

---

アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) レベルに至るすべての統合タッチポイントでテストを自動化することにより、Sandhata はアプリケーションの全体的な品質を高め、欠陥を解決するコストを削減しました。

「統合テストの自動化とサービス仮想化を開発ライフサイクル全体で使用しているため、非常に早い段階で欠陥を発見し、迅速に修正できます」と Thornhill 氏は述べています。「これにより、デリバリーのサイクルが大幅に加速します」

## 市場に出すまでの時間を短縮し、コードの品質を向上

銀行は IBM のサービス仮想化ソリューションによって大きなメリットを実現しています。この銀行は 3 年間で、未検出の欠陥が原因となる本番環境でのインシデントの数を 99% 以上削減しました。

「これにより、銀行のコスト増の原因となっていた本番環境での欠陥の修正に開発チームが釘付けになることはなくなり、新規プロジェクトに機敏に移れるようになりました」と Thornhill 氏は語ります。開発チームの俊敏性が向上したため、銀行は 3 年以内にプロジェクトの達成能力を 100% 高めることができ、年間のプロジェクト完了数が 40 件から 80 件へと増加しています。複雑な統合プロジェクトの完了数を 2 倍に増やすことは、お客様であるその銀行にとって、ハードウェア、ソフトウェア、リソースのコストを 3 年間で推定約 600 万米ドル節約することにつながります。

サービス仮想化ソリューションのもう 1 つのメリットは、市場に出すまでの時間の短縮です。より早い段階での頻繁なテストや欠陥の解消、コードの品質改善が可能になり、この銀行はプロジェクトの方向付けから完了までの期間を 44% 加速することで、商品とサービスを顧客に提供するまでの時間を短縮でき、新しい市場オポチュニティーを獲得できるようになりました。この銀行は機能強化を開発しその日のうちにテストできる機能を用いて、アジア太平洋地域の取引所で取り引きするために必要な変更を組織に導入し、数百万ドルの利益を生み出しました。「結論として、サービスの仮想化により、お客様のコスト削減と開発のスピードアップが実現します。これはまさに、企業が競合他社への優位性を維持するために必要なことです」と Thornhill 氏は述べます。

## 詳細

IBM DevOps アプローチについて詳しくは、IBM 担当員に  
問い合わせるか、次の Web サイトを参照してください。

[www.ibm.com/cloud-computing/jp-ja/products/devops/](http://www.ibm.com/cloud-computing/jp-ja/products/devops/)

IBM Rational Test Workbench について

[ibm.com/cloud-computing/jp/ja/learn-more/middleware/rational\\_test\\_workbench/](http://ibm.com/cloud-computing/jp/ja/learn-more/middleware/rational_test_workbench/)



© Copyright IBM Corporation 2018

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

Produced in Japan

2018 年 4 月

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Rational、および WebSphere は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書の内容（該当する税を除いた、通貨あるいは価格設定の参照を含む）は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。

IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。



Please Recycle